

みんなが居心地のよい学校をみんなでつくる

校長 北野 美紀

10月9日に実施した運動会には、多くの保護者の皆様に来校いただきましてありがとうございました。また、ボランティアにご協力いただいた皆様にも心よりお礼を申し上げます。風が強く、観覧場所も十分でない中、ご理解とご協力のおかげで、そして子ども達全員の頑張りで、大成功の運動会となりました。保護者の皆様には、子ども達の一生懸命な姿をご覧いただくことができたかと思っています。

11月に入り、各学年の大きな行事も終了となる中、様々な緊張感、行事への高揚感が一段落してきます。そのため、目標を失い気がゆるみがちになる時期とも言われます。そこで、改めて子ども達みんなにとって、居心地の良い学校へとなるように支援していきたいと考えています。①学年の担任全員で学年の子ども達を育てる取り組みを進めていきます。②体力作りの一環として、持久走の取り組みを始めます。他人と競うのではなく、自分がどれだけ記録を伸ばせるかに挑戦していきます。③読書月間の取り組みとして、移動図書館、ビンゴを実施し、読書に親しみ心が豊かになるきっかけ作りをします。10月から取り組みが始まっている、図書ボランティアの方による移動図書館ですが、そのお力は絶大で、普段あまり本に手が伸びない子が借りているというお話を聞き、嬉しく思っています！

読書と言えば…この夏「なるほど」と感じた本、アドラー心理学の内容をいくつか紹介します。

①個人ではなく、コミュニティ（共同体）の一員として自覚を持つこと、他人を仲間とすることができたら「自分の居場所」ができること。②他者のことを「敵」と考えるか、「仲間」と考えるかによって、人生は大きく変わってくる。③独自の教育哲学として、「尊敬」「責任」「社会性」「生活力」が、子どもを育てるときの重要な要素となること。「尊敬」…子どもを対等に扱う 行動を尊重 「責任」…課題から逃げずに責任を持つことを教える 「社会性」…自分の欲求を満たすために他人を傷つけない姿勢 「生活力」…社会で生きていく力 ④「ありがとう、助かったよ」と感謝を伝えることが大事なことであり、子どもは感謝される喜びを体験すると、自ら貢献できる人間に育っていく。

ありのままの自分が認められ、人のせいにせず、やり直しの自由が保障される、そんな「子どもが真ん中」の学校に、そして、保護者・地域・教職員、「大人のチーム力」で子ども達を育てていける学校にしていきたいと考えています。今後ともご理解・ご協力の程よろしくお願いします。

